

日本周辺クロマグロ調査委託事業

本永文彦・前田訓次・高江弘子*・與那嶺広治*

1. 目的及び内容

本調査は国庫委託を受けて平成4～8年度に実施する。

漁業をめぐる近年の国際情勢に鑑みて、北太平洋におけるまぐろ類、特にクロマグロの資源管理体制の確立が予想される。このため、現在、資源管理に必要な知見の蓄積が充分でない日本周辺に重点を置きつつ、北太平洋海域のまぐろ類の漁業データ・生物学的情報等の収集・解析を行い、北太平洋のまぐろ類等の資源評価に必要な基礎資料を設備することを目的とする。

沖縄県は本事業を通して、沿岸まぐろ延縄の漁業実態に関する情報を得ることで、将来のまぐろ漁業振興を目指した研究に役立たせることを目的とした。

本事業による調査結果は、水産庁より「平成4年度日本周辺クロマグロ調査委託事業 報告書」として1993年3月に発行されているので、ここでは結果の要約のみ記すことにする。

2. 方法

- ①漁獲状況調査 まぐろ漁業による魚種組成を知るため、パヤオ利用漁業とまぐろ延縄漁業の漁獲量統計資料を作成した。パヤオ利用漁業の標本港として、糸満漁港で水揚げされる魚種別漁獲量を集計した。また、まぐろ延縄漁業は、糸満新港における水揚げ分のうち、A業者の伝票を基に魚種別の漁獲量資料を整理した。
- ②生物測定調査 糸満新港において、月に10～20日程度の頻度で、水揚げされるまぐろ類の体長を調査した。
- ③標本収集調査 系群判別、年齢・成長・移動等の解明、産卵生態の解明のため、筋肉組織、耳石等、卵巣の収集を行う。

3. 結果の要約

- ①漁獲状況調査 1992年のクロマグロ漁獲量（糸満新港）は630尾であった。1986年以降では過去最高であった。例年と比較して、盛漁期の時期が約1ヶ月遅れ、漁場の範囲が広がった模様（漁業者と水産公社職員からの聞き取り）。漁業者と市場関係者の話しでは、「肉質が悪く、魚体が小さい」ことで、市場価格は低調であった（聞き取り）。
- ②生物測定調査 体長及び体重の資料は、現在整理中であるため、今後取りまとめしだい報告する。
- ③標本収集調査 本年度の調査開始時期は9月であったことから、漁期を終えたクロマグロのサンプルは得られなかった。

* 非常勤職員